

平成22年度 病害虫発生予察注意報 第1号

平成22年6月30日
発表：福島県病害虫防除所

- 1 対象作物：モモ（中生種・晩生種）
- 2 病害虫：モモせん孔細菌病
- 3 対象地域：中通り北部
- 4 発生量：やや多い

予報の根拠

- (1) 5月下旬の春型枝病斑（スプリングキャンカー）の発生ほ場割合は、伊達地域では平年より高かった（図1）。
- (2) 新梢葉での発生ほ場割合（6月下旬）は、伊達地域で平年より高く、二次感染源が多いと推定される（図2）。
- 果実での発生ほ場割合（6月下旬）は、福島地域・伊達地域とも平年より高かった（図3）。
- (3) 向こう1か月の気象予報では、曇りや雨の日が多く、降水量が多い確率が高いと見込まれ感染に適した気象条件である。

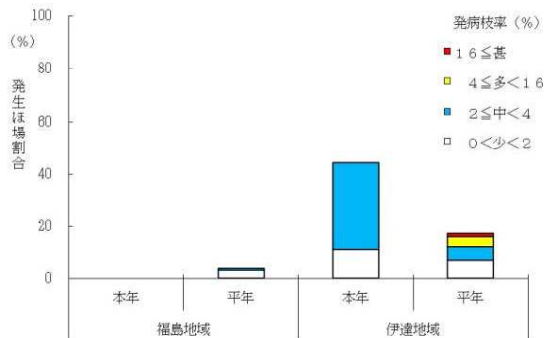


図1 春型枝病斑の発生状況（5月下旬）

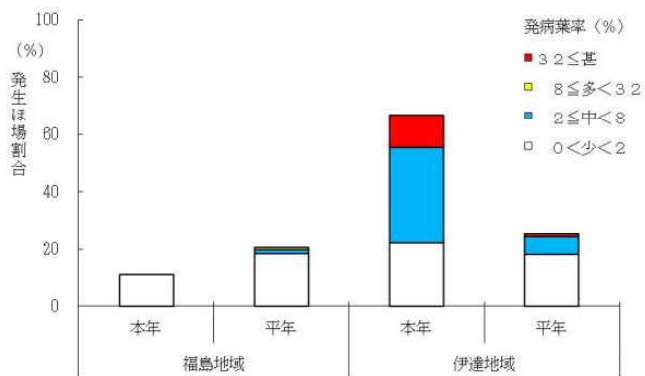


図2 新梢葉での発生状況（6月下旬）

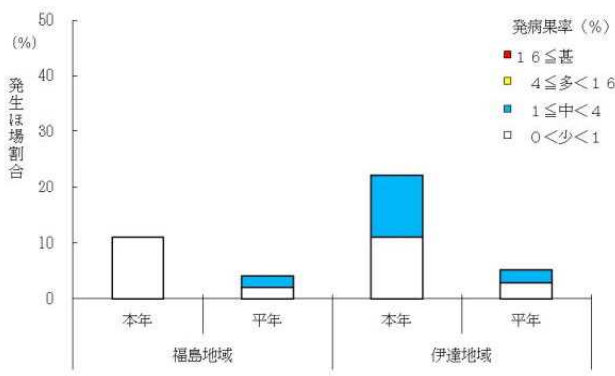


図3 果実での発生状況（6月下旬）

防除対策

(1) 耕種的防除

被害葉や被害果実は二次感染源となるので、見つけしだいせん除して適切に処分する。

(2) 薬剤防除

中生種や晩生種は7月の感染で発病することがあるので、散布間隔をあけすぎないように防除する。

下記の表からいずれかの薬剤を選択して散布する。晩生種では、マイコシールド（収穫前21日まで）を使用してもよい。

ただし、バリダシン液剤5やマイコシールドは、耐性菌が出現しやすいので連用しない。

なお、スターナ水和剤は、作用性の異なる薬剤とのローテーションで使用する。

表 モモせん孔細菌病の主な防除薬剤（平成22年6月25日現在）

薬剤名	農薬の成分名	濃度	使用期間 (収穫前日数)	本剤の使用回数
スターナ水和剤	オキシリニック酸	1,000倍	7	3
バリダシン液剤5	バリダマイシン	500倍	7	4
マイコシールド	オキシテトラサイクリン	2,000倍	21	5

※ 薬剤を選択する際には、選択した薬剤の使用回数と含有する有効成分の総使用回数（他剤を含む）に十分注意する。

※ 薬剤を選択する際には、収穫前日数に十分注意する。

※ 濃度のアンダーラインは、平成22年版農作物防除指針で採用している濃度を示し、登録上は希釈倍数に幅がある。

（例 マイコシールド 1,500～3,000倍）

- 情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）までご連絡ください。 TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727